

地域青少年活動における学生リーダーの活動意識に関する報告 — 都内A区リーダー達の事例 —

栗原邦秋（余暇問題研究所）

キーワード：青少年健全育成 リーダー養成 活動意識

I 問題意識

レクリエーションと青少年教育は歴史的にも実際的にも密接な関係にある。近年、暴力行為、いじめ、自殺、不登校、家出などの増加に象徴される青少年に関わる問題が大きくクローズアップされている。

こうした背景のもと、地域における青少年教育に関心が集まるなか、橋本らは（2000）、リーダーセミナー参加者と一般中学・高校生との友人関係意識を比較検討した結果、セミナー参加者に「ひとりよりも友人といることが落ち着く」「互いに悩みを打ちあけられる」とする傾向が有意であることを検証した。さらに、橋本らは（2001）、リーダーセミナーへの参加理由の把握を試み、「学校外の人と知り合える」「さまざまなことに挑戦したい」とする傾向があることを示した。その一方で、私的生活領域の関心に止まっており現代青年の特徴（いわゆるミーイズム）の存在を指摘している。

報告者は、従来よりレクリエーション専門家として地域の青少年教育活動に携ってきたが、平成17年4月より都内A区における青少年健全育成事業の一環である「中学・高校生対象リーダー養成事業」に携る機会を得ている。ここで、スタッフである6名の学生リーダーの活動姿勢・態度に着目した。それは、互いに親密に和みながらも自分達の役割に対する責任や使命を十分に果たそうとする真摯な姿であった。

そして、彼らのスタッフ活動を促しているであろう意識の在り様やその形成過程の特徴を探り得た上で、リーダー養成の受講生を対象に検討を進めた前述の先行研究の結果も加味して考察を進めるならば、今後の青少年活動の運営に有益な示唆を得られるのではないかと考えるに至った。現在はスタッフの側にある学生リーダー達自身も、以前はプログラムの受講者だった経緯をもつからである。

II 目的

本研究の最終的な目的は「リーダー養成事業等の地域青少年活動におけるリーダー（スタッフ）の活動意識とその形成過程を把握し、今後の運営に有効な示唆を得ること」とした。その上で、今回は「『A区中学・高校生対象リーダー養成事業』の学生リーダー達が一連の運営場面において示す活動姿勢・態度の特徴を探ること」とした。

III 方法

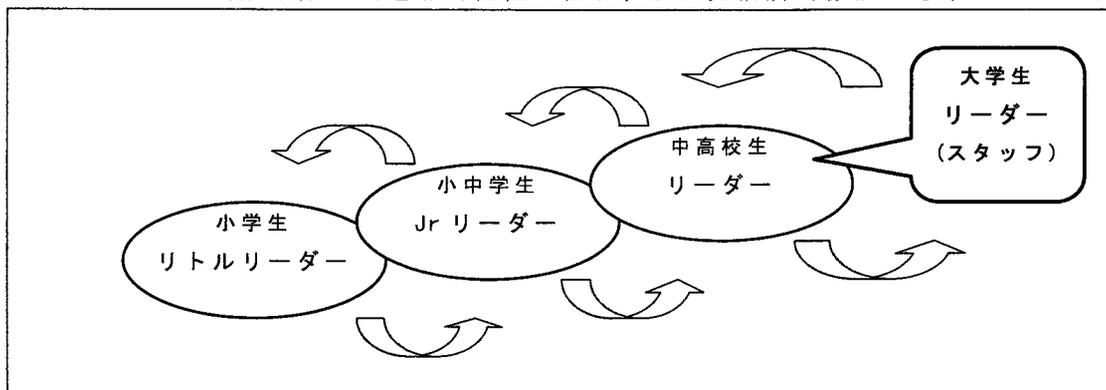
報告者が平成17年4月より都内A区「中学・高校生対象リーダー養成事業」にディレクターとして携るなかで、学生リーダー6名が企画会議・準備作業・プログラム実施中・事後評価会などの運営場面および関連するインフォーマルな場面において示した行動を観察し、その具体的な事例を抽出・整理した上で検討を加えた。

IV A区「リーダー養成事業」の構図と概要

「リーダー養成事業」はA区における青少年健全育成事業の一環として、その主旨に「青少年の意欲を引き出し、青少年がいきいきと取り組み、充実感を味わえる育成活動をめざし、青少年が試行錯誤して成長できる場、リーダーとしての力を発揮できる場となること」

(A区長期基本計画・分野別プラン)を掲げて運営されている。当該事業は昭和43年より教育委員会の主管により開始され、平成14年度からは区民生活部へ移管されながら現在に至る。同区内では18地区ごとに配置された「青少年対策地区委員会」の主導により小・中学生を対象にする「リトル／ジュニア・リーダー養成」が実施されており、子ども会、祝祭行事参画、地区キャンプ、各種スポーツ大会などの活動展開を図っている。

本報告で取り上げる「中学・高校生対象リーダー養成事業」は、下図に示すように区内の青少年リーダー養成事業の到達点的位置に在り、また発信所的機能をも果たしている。



A区青少年活動(リーダー養成)の構造図

「中学・高校生対象リーダー養成」のスタッフである学生リーダー達と受講生は、各地区におけるリトルリーダーやJr.リーダー活動にも携る機会があり、それぞれにリーダーシップを発揮している。そして学生リーダー自身も地区の青少年活動における受講者だった経緯をもっている。「持ち上がり／順次指導制」と「循環／還元」の関係が成立すると考えられる。

中学・高校生対象リーダー養成年間プログラム概要

	対象	実施時期	時間×回数	テーマ・概要など
春期	高校生	5・6月	3×6回	グループワーク・リーダーシップ
夏期	中・高	7・8月	5×6回 宿泊研修3泊4日	協力・協働・企画・実行
冬期	中・高	1・2・3月	3×4回 5×2回	「遊びの広場(校庭開放)」

年度の開始にあたる春期の講座では高校生を対象にする。夏期、冬期へと続く講座において高校生達が中学生達のまとめ役となることを想定している。夏期の講座は中学生と高校生がミックスされ、互いに協力し合い共同作業(プロジェクト)を試行することに焦点を置く。冬期は、受講生が近郊の小学校に赴き児童達に対して遊びのリードを体験する「遊びの広場(校庭開放)」をメインに据えている。

V 結果・考察

学生リーダーのプロフィールは次のとおりである――

リーダーA：女性	保育専門学校生	(保育士志望)
リーダーB：男性	教育大学生	(小学校教諭志望)
リーダーC：女性	体育大学生	(教職・インストラクター志望)
リーダーD：男性	法学部学生	(具体的志望先不明)
リーダーE：女性	看護専門学校中退	(具体的志望先不明)
リーダーF：男性	教育学部学生	(教職志望)

最年少 20 歳。最年長 22 歳。全員が、A 区内に在住。同時期に A 区 Jr. リーダー養成講座をおよび中学・高校生対象リーダー養成講座を受講した共通体験がある。

学生リーダー達が示した行動事例

観察場面	行動事例
事前会議 スタッフ会	<ul style="list-style-type: none"> ・議事内容やディレクターの発言を几帳面にメモする ・単に受け身な出席ではなく、自発的に意見を発する ・ディレクターから提供される課題をむしろ期待している様子 ・難題(挑戦)課題については、先ず質問して内容の理解に努める ・その上で、簡単に拒否や諦めをせず、「やってみる」と意志を示す
事前準備 話し合い 準備作業	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に集合している ・茶菓を持参する ・話し合うべき主題から容易に逸れて長時間におよぶこともある ・むしろ長時間集うことを楽しんでいる様子 ・雑談に夢中となって作業がほったらかされることもある ・準備作業を進めながら受講生の様子を頻繁に会話している ・「前はアアだったのに…」「学校で旨くいってないのか…」など ・宿泊研修の下見へ自主的に出掛ける ・「全員がその目で確かめて、同じ感覚や意識になりたい」と言う ・新しいゲームを指導していくことに意欲的 ・<ゲームの本>を持参して、内容やリードの方法を質問してくる ・昼休みにソングリードやゲーム指導の練習を自発的にしている
プログラム 実施中	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に余裕のある時間を考えて早めに集合する ・これに遅刻するリーダーには寛容でありつつ互いに「ダメジャン」 ・自主的に打ち合わせやリハーサルをすることもある ・受講生への挨拶を意図的に明朗にするように努めている ・「正しく立つ」「話し方」などには互いに留意を促し合っている ・適切な服装を自主的に心掛けるようになった ・消極的(引込み思案)な受講生には親身にフォローする ・感情が入りすぎて時間配分を疎かにする場面もある

<p>宿泊研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6色のカバーオールを自費で揃え着用する ・体力的に辛い準備作業にも“嫌な顔”はしない ・重い臼の移動も楽しんでる様子（男性リーダー） ・追跡ハイクのポイント設定など労力のかかる準備をむしろ好む ・受講生の日記へのコメントを「眠いー」といいつつ詳細にする ・キャンプファイヤーの実施に及んではさらに真剣な顔つきになる ・自分達もよく感激して涙を流している ・全力を出しきる意気込みを示す
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いのプライバシーにもオープンでよく知っている ・当日に病気や体調不良でも出てくる（安易に休もうとしない） ・女性リーダー達は周到・執拗で男性リーダー達は比較的ドライ ・「もっとできるんじゃない?」「そこまでやるか?」 ・互いの傾向（個性）を容認して旨くバランスを保っている ・「先輩達がしてくれたことを今後は自分達が…」と言葉にする

- 茶菓を持参して長時間に及ぶ“井戸端会議的”な話し合いや和気あいあいと準備作業を進めている場面には、同好サークル的に交友を楽しんでいる様相が伺える。
- スタッフとして集うことは、彼らにとっても＜居心地のよい場所＞になっていると考えることができる。学生リーダー達は、かつては同じ講習の受講者であったことから、橋本らが指摘したセミナーへの参加理由および友人関係意識にある「学校以外の友人を求めて」「ひとりよりも大勢でいることに落ち着きを感じる」という特徴がそのまま継続しており、さらに補強されているかに考える。
- リーダー達が示す役割遂行に対する意欲は惜しめないものに伺える。「先輩の後をしっかり継いでいこう」とする発言に代表されるように、責任感・使命感を強く抱いているように伺える。これも、かつての有意義な体験を通じて実感した共通の価値観に基づくのであろうと推察できる。
- リーダーとしての実質的な役割の遂行には、“仲間意識的”な寛容もみられるが、一定の厳しさも示している。体調不良であってもそれを押して出てくることや、ユニホーム、重労働も厭わずにすること、キャンプファイヤーではとくに真剣になることで、彼ら自身が“より良き先輩”になろうと努めていることが伺える。

VI 結 論

今回の研究はA区リーダー養成事業の学生リーダー達が一連の運営場面で示す活動姿勢・態度の特徴を探ることであった。その結果、「彼ら自身にとって良き居場所である」「受講者だった当時に実感した共通の価値観」「より良き先輩として、自分達が実感した価値観を継続しようとする意識」などを伺い知るに至った。リーダー養成に代表される青少年教育をより一層有意義に運営していく為には、「順次指導制」の成果といえる、これらの特徴を重視した上で、青少年がその時期に獲得するに相応しい普遍的な価値を導く長期的視野に立つことの必要性を再認識することができた。しかしながら、今回の研究では客観的な基準による系統的な分類・分析には至らなかった。今後は、さらに研究方法の検討を加えながら研究を継続していくことで、より有効な成果を得るよう努めていきたい。